JAPANESE: LEVEL I

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『まど』　にいみ　なんきち

まどをあければ

かぜがくる　かぜがくる

ひかったかぜがふいてくる

まどをあければ

こえがくる　こえがくる

とおい子どものこえがくる

まどをあければ

そらがくる　そらがくる

こはくのようなそらがくる

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection I

『こだまでしょうか』　　かねこ　みすず

「あそぼう」っていうと
「あそぼう」っていう。
「ばか」っていうと
「ばか」っていう。
「もうあそばない」っていうと
「もうあそばない」っていう。
そして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、
いいえ、だれでも。

Second Selection II

『ちょうちょう』　やまむら　ぼちょう

あおぞら　たかく

たかく

どこまでも、どこまでも

まいあがっていった　ちょうちょう

あのふたつの　ちょうちょう

あれっきり

もうかえってはこなかったか

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection III

『あるけ　あるけ』　　つるみ　まさお

どこどん　どこどん

あるけ　あるけ

ちきゅうの　たいこ

みんなの　あしで

そら

どこどん　どこどん

あるけ

どこどん　どこどん

あるけ　あるけ

ちきゅうの　うらで

だれかの　あしも

たたいて　いるよ

ほら

どこどん　どこどん

あるけ

JAPANESE: LEVEL II

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『おおきくなる』　谷川 俊太郎（たにかわしゅんたろう）

おおきくなってゆくのは

いいことですか

おおきくなってゆくのは

うれしいことですか

いつかはなはちり

きはかれる

そらだけがいつまでも

ひろがっている

おおきくなるのは

こころがちぢんでゆくことですか

おおきくなるのは

みちがせまくなることですか

いつかまたはなはさき

たまごはかえる

あさだけがいつまでも

まちどおしい

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection I

『かぼちゃのつるが』　　原田(はらだ)　直友(なおとも)

かぼちゃのつるが

はい上(あ)がり　はい上がり

葉(は)をひろげ　葉をひろげ

はい上がり　葉をひろげ

細(ほそ)い先(さき)は　竹(たけ)をしっかりにぎって

屋根(やね)の上(うえ)に　はい上(あ)がり

短(みじか)くなった竹(たけ)の上(うえ)に　はい上(あ)がり

小(ちい)さなその先(せん)たんは　いっせいに赤子(あかご)のような手(て)を開(ひら)いて

ああ　今(いま)　空(そら)をつかもうとしている

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection II

『星とたんぽぽ』　　金子　みすゞ

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。

　見えぬけれどもあるんだよ、
　見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぽぽの、
瓦のすきに、だァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ。

　見えぬけれどもあるんだよ、
　見えぬものでもあるんだよ。

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection III

『ゆりかごの歌(うた)』　　北原(きたはら)　白秋(はくしゅう)

ゆりかごの歌(うた)を
カナリアが歌(うた)うよ
ねんねこ　ねんねこ　ねんねこよ

ゆりかごの上(うえ)に
枇杷(びわ)の実(み)がゆれるよ
ねんねこ　ねんねこ　ねんねこよ

揺(ゆ)りかごのつなを
木(き)ねずみがゆするよ
ねんねこ　ねんねこ　ねんねこよ

ゆりかごのゆめに
黄色(きいろ)い月(つき)がかかるよ
ねんねこ　ねんねこ　ねんねこよ

JAPANESE: LEVEL III

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『なぜ』　　川崎(かわさき)　洋(ひろし)

なぜ　風(かぜ)は
新(あたら)しい割(わ)りばしのように　かおるのだろう
なぜ　鳥(とり)は
空(そら)を滑(すべ)れるのだろう
なぜ　夏蜜柑(なつみかん)は
酸(す)っぱいのだろう

なぜ　海(うみ)は
色(いろ)を変(か)えるのだろう
なぜ　たった一人(ひとり)の人(ひと)を愛(あい)するようになるのだろう
なぜ　涙(なみだ)は嬉(うれ)しいときにも出(で)るのだろう
なぜ　フリュートはあんなに遠(とお)くまでひびくのだろう
なぜ　人(ひと)はけわしい顔(かお)をするのだろう
なぜ　ギターの弦(げん)は５本(ごほん)でなく７本(ななほん)でなく６本(ろっぽん)なのだろう

なぜ
なぜ
なぜ

そして　人(ひと)は　なぜ
いつの頃(ころ)からか
なぜ
を言わなくなるのだろう

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection I

『あどけない話』　高村　光太郎

智恵子は東京に空がないと言う、
ほんとの空が見たいと言う。
私は驚いて空を見る。
桜若葉の間に在るのは、
切っても切れない
むかしなじみのきれいな空だ。
どんよりけむる地平のぼかしは
うすもも色の朝のしめりだ。
智恵子は遠くを見ながら言う。
阿多多羅山の上に
毎日出てゐる青い空が
智恵子のほんとの空だと言う。
あどけない空の話である。

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection II

『東へ行けば』　　北原　白秋

東へ行けば
早や夜があける
ララランとあける
牡丹のように
ララランとあける

西行く子ども
すぐ日が暮れる
チロリと暮れる
茅花のように
チロリと暮れる

北へ行けば
北斗が光る
チカチカ光る
杓子のように
チカチカ光る

南へ行けよ
綿雲出てる
ポカリと出てる
海豚のように
ポカリと出てる

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection III

『せんねん　まんねん』　　まど・みちお

いつかのっぽのヤシの木になるために
そのヤシのみが地べたに落ちる
その地ひびきでミミズがとびだす
そのミミズをヘビがのむ
そのヘビをワニがのむ
そのワニを川がのむ
その川の岸ののっぽのヤシの木の中を
昇っていくのは
今まで土の中でうたっていた清水
その清水は昇って昇って昇りつめて
ヤシのみの中で眠る

その眠りが夢でいっぱいになると
いつかのっぽのヤシの木になるために
そのヤシのみが地べたに落ちる
その地ひびきでミミズがとびだす
そのミミズをヘビがのむ
そのヘビをワニがのむ
そのワニを川がのむ
その川の岸に
まだ人がやって来なかったころの
はるなつあきふゆ　はるなつあきふゆの
ながいみじかい　せんねんまんねん

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『いま始(はじ)まる新(あたら)しいいま』　　川崎(かわさき)　洋(ひろし)

心臓(しんぞう)から送(おく)り出(だ)された新鮮(しんせん)な血液(けつえき)は
十数秒(じゅうすうびょう)で全身(ぜんしん)をめぐる

わたしはさっきのわたしではない

そしてあなたも

わたしたちはいつも新(あたら)しい

さなぎからかえったばかりの蝶(ちょう)が

生(う)まれたばかりの陽炎(かげろう)の中(なか)で揺(ゆ)れる

あの花(はな)は

きのうはまだ蕾(つぼみ)だった

海(うみ)を渡(わた)ってきた新(あたら)しい風(かぜ)がほら

踊(おど)りながら走(はし)ってくる

自然(しぜん)はいつも新(あたら)しい

きのう知(し)らなかったことを

きょう知(し)る喜(よろこ)び

きのうは気(き)づかなかったけど

きょう見(み)えてくるものがある

日々(ひび)新(あたら)しくなる世界(せかい)

古代史(こだいし)の一部(いちぶ)がまた塗(ぬ)り替(か)えられる

過去(かこ)でさえ新(あたら)しくなる　　**(Cont'd on the following page)**

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Mandatory Selection, cont'd.)

きょうも 新(あたら)しいめぐり 合(あ)いがあり

まっさらの 愛(あい)が

次々(つぎつぎ)に 生(う)まれ

いま 初(はじ)めて 歌(うた)われる 歌(うた)がある

いつも　いつも

新(あたら)しいいのちを 生(い)きよう

いま 始(はじ)まる 新(あたら)しいいま

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection I

『一つのメルヘン』　　中原　中也

秋の夜は、はるかの彼方に、
小石ばかりの、河原があって、
それに陽は、さらさらと
さらさらと射しているのでありました。

陽といっても、まるで硅石か何かのようで、
非常な個体の粉末のようで、
さればこそ、さらさらと
かすかな音を立ててもいるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶がとまり、
淡い、それでいてくっきりとした
影を落としているのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、
今迄流れてもいなかった川床に、水は
さらさらと、さらさらと流れているのでありました……

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection II

『わたしを束ねないで』　　新川　和江

わたしを束ねないで
あらせいとうの花のように
白い葱のように
束ねないでください　わたしは稲穂
秋　大地が胸を焦がす
見渡すかぎりの金色の稲穂

わたしを止めないで
標本箱の昆虫のように
高原からきた絵葉書のように
止めないでください　わたしは羽撃き
こやみなく空のひろさをかいさぐっている
目には見えないつばさの音

わたしを注がないで
日常性に薄められた牛乳のように
ぬるい酒のように
注がないでください　わたしは海
夜　とほうもなく満ちてくる
苦い潮　ふちのない水

わたしを名付けないで
娘という名　妻という名

(Cont'd on the following page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection II, cont'd.)

重々(おもおも)しい母という名でしつらえた座(ざ)に
座(すわ)りきりにさせないでください　わたしは風(かぜ)

りんごの木と
泉(いずみ)のありかを知っている風

わたしを区切(くぎ)らないで
，(コンマ)や．(ピリオド)　いくつかの段落(だんらく)
そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙(てがみ)のようには
こまめにけりをつけないでください　わたしは終(おわ)りのない文章(ぶんしょう)
川(かわ)と同(おな)じに
はてしなく流(なが)れていく　拡(ひろ)がっていく　一行(いちぎょう)の詩(し)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection III

『明日(あす)』　　与謝野(よさの)　晶子(あきこ)

明日(あす)よ、明日(あす)よ、
そなたはわたしの前(まえ)にあって
まだ踏(ふ)まぬ未来の
不可思議(ふかしぎ)の路(みち)である。
どんなに苦(くる)しい日にも、わたしは
そなたに憬(こが)れて励(はげ)み、
どんなに楽(たのし)い日にも、わたしは
そなたを望(のぞ)んで踊(おど)りあがる。

明日(あす)よ、明日(あす)よ、
死(し)と飢(うえ)とに追(お)われて歩くわたしは
たびたびそなたに失望(しつぼう)する。
そなたがやがて平凡(へいぼん)な今日(きょう)に変(かわ)り、
灰色(はいいろ)をした昨日(きのう)になってゆくのを
いつも、いつもわたしは恨(うら)んで居(い)る。
そなたこそ人を釣(つ)る好(よ)い香(におい)の餌(えさ)だ、
光に似(に)た煙(けむり)だと咀(のろ)うことさえある。

けれど、わたしはそなたを頼(たの)んで、
祭(まつり)の前夜(ぜんや)の子供(こども)のように
「明日(あす)よ、明日(あす)よ」と歌う。
わたしの前には
まだまだ新しい無限(むげん)の明日(あす)がある。

(Cont'd on the following page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection III, cont'd.)

よしや、そなたが涙(なみだ)を、悔(くい)を、愛(あい)を、
名を、歓楽(かんらく)を、何を持って来ようとも、
そなたこそ今日(きょう)のわたしを引(ひ)く力である。